

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070101041		
法人名	医療法人 群栄会		
事業所名	グループホーム みずきの家		
所在地	前橋市池端町384番地1		
自己評価作成日	令和元年5月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号		
訪問調査日	令和元年10月16日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々の暮らしの中で常に季節を感じながら生活できる事を大切にしたいと考えています。庭の畑で季節に応じた野菜を育てたり、季節ごとの行事や庭に咲く花等から、また、何気ない会話の中からも入居者様が日常的に季節を意識して生活して頂けるように努めています。  
入居者様一人ひとりと真剣に向き合い、理念の中にある「その人らしく・毎日が笑顔で 和やかに・・・」生活して頂けるよう努めています。病院併設の施設である為緊急時の対応はスムーズでご家族や利用者様に安心して頂けます

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

在宅時から身だしなみに気を配り、おしゃれを楽しんできた利用者は、入居後もおしゃれをして散歩に出かけたり、ホールで自由に過ごしている。利用者の嗜好や行動が制止されず、プライドを持って生活することを支援していることがうかがえる。また、避難訓練等の自主訓練について担当者を決め、年間計画を立てて実施している。それは利用者の命を守る事業所として責任をもって緊急時に備える姿勢の表れといえる。共用空間についても、写真等の掲示に大人らしい落ち着いた雰囲気があり、臭いもなく清潔で、大人の空間になるよう工夫している。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方との関りやつながりを大切にした理念を作成、ホールに掲示にて常に意識して実践に努めている	理念にある「個性を活かしたその人らしさ」を大切にケアを実践するため、事業所内に理念を掲示し、職員間で毎日必ず読むことを日課にし、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し地域活動の役割として古紙回収に協力、自治会長や民生委員の方は運営推進会議に参加してくれている	地域の文化祭に参加したり、クリスマス会等の行事に地域からボランティアの協力を得ている。また医学部の実習生を受け入れ、交流を図る等、地域とのふれあいを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域の会合等で認知症の理解を深めてもらえるような働きかけを行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月に年6回定期的に行い、利用者の近況や行事等の報告を行っている。前橋市の職員・自治会長・民生委員・ご家族等の参加を頂き意見交換等している	家族や自治会長、民生委員、行政の出席により、隔月ごとに開催している。利用者の状況報告や行事報告、行事予定の他、介護保険やAED、外部評価等についても出席者間で質疑応答が行われる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	前橋市の研修会や必要に応じて情報や相談等の支援をいただいている。運営推進会議には市の職員が参加してくれている	市役所福祉課とも連携をとっている。また、認定調査に立ち会っている。事故等の報告は管理者が役所に出向き、市担当者と連絡、相談を通して連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ全員が処遇委員会に属しており、定期的に会議を持ち意識向上、実践に努め取り組んでいる	玄関は開錠しているが、2階の利用者の状況によって施錠することもある。スピーチロックについては職員間で注意し合い、拘束禁止の内容が盛り込まれた目標を月毎に掲げ、実行している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	苦情・身体拘束・虐待等含めて処遇対策委員会で全員で取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々の必要性に応じて対応や支援をしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い同意を得てから対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に日頃の様子を伝えながら意向・意見・要望等を聞き取れるようにしている。出された意見・要望等は職員会議等でも話し合い反映できる事は即対応に努めている	家族の面会頻度は様々だが、面会時や食事介助のために来訪した家族からその都度意向や要望を聞くようにしている。利用者は思っていることを何でも声に出して言える環境にある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や毎日のミーティングの場・施設会議等で職員に意見を聞く場を設け、反映できるように努めている	普段から意見や提案について職員間で話しているが、なるべく会議の場で話し合えるよう月2、3回職員会議を開き、職員の問題提議、解決の機会を設け、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に従い業務区分や勤務区分表を適切に作成し超過業務等の縮減等を管理している。効率的な業務で計画の推進を行い職場環境条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ一人ひとりが目標を持ち、モチベーションを高めるよう施設内外の研修を多く活用し教育体制強化を進めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会主催の研修や会議に出席する等して同業者と交流する機会を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談は本人よりも家族からの電話や来訪が多く、結果本人の困り事よりも家族の主張を聞いているが利用開始後に本人が困っている事、不安な事を聞く機会を多くとり早い時期に良い信頼関係が築けるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時または後日家族に来居して頂き、より細部にわたって聞き取りや相談を受けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の状況に応じて可能な限り柔軟な対応ができるよう努めている。母体病院や老健施設、居宅支援事業所との連絡体制があり必要に応じた対応ができるよう相談やアドバイスをしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支えあって生活していくという考えの中で教えたり教えられたり励ましたり励まされたりしながらの生活を大切にしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や変化等日常の様子を家族に知ってもらう為来訪時や電話にて、きめ細かく伝えるようにしている。家族と一緒に過ごす時間を大切にしており必要に応じて提案や協力をしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	子や孫、兄弟等家族の訪問が頻繁にあり、一緒に外出したり家族との交流が途切れないよう支援しているが家族の協力もある	家族と定期的に外出し、外食を楽しんだり、帰宅を試みることもある。また、行きつけの美容院に通ったり、馴染みの嗜好品を家族が持って来ている。在宅時の関係性や習慣の継続支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルを回避し孤立せずに日々過ごして頂けるようテーブル席のメンバーや入浴の順番等にも配慮して対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談にのったり情報提供等を行っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	はっきりとした自己表現が困難な人も多いが日々の暮らしの中で発する利用者の言葉や家族の話の中から要望や意向をくみ取りプランに反映されるようにしている	日常的に交わす利用者の言葉から、職員は利用者の真意や意向を察している。また、家族の話から食べたい物、やりたいこと等、利用者が望むことを知り、ケアに反映させるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報提供と何気ない会話の中からも情報を引き出せるよう努め家族には来訪時に折にふれ話を聞くようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムを理解しながら援助していく中で心身の状態等個別の情報も共有しながら現状把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングで出された意見や本人の状況、医師や看護師のアドバイスや指導、家族の意向等も反映したプランになるよう努めている	毎月モニタリングをし、担当者会議を開いている。介護日誌や個人日誌に介護計画に基づいた記録をし、職員間で共有している。介護計画は予防的視点からも3ヶ月ごとに見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人日誌の記録とは別に水分量、食事量、排泄等の個別チェック、記録、申し送りの徹底で情報を共有し見直しに生かせるよう努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じてできる限り柔軟に対応している 医療連携体制のもと状態に応じての往診や点滴処置、他病院への通院介助等を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	福祉事務所職員や居宅支援事業所、地域の自治会長や民生委員さん等による支援、消防署協力の火災訓練等支えられて行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に説明選択できる。希望に応じて専門医受診をしている方もいる	かかりつけ医でも協力医でも選択できることを説明している。専門医への受診は家族の付き添いを基本としているが、職員が付き添うこともある。毎月協力医の往診、歯科往診がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に健康面の相談をしており、気付きや情報も細かく伝えてアドバイスや指導ももらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院との連携体制ができており、ホームでの対応が可能であればなるべく早く退院し入院によるダメージを少しでも軽くできるよう支援している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療的処置が必要になり家族が治療を望む時は併設の病院へ入院している。終末期における看取りは病院で行う事を家族には説明している	看取りは併設の病院で行い、利用者の状態により段階的に協力医が説明することになっている。現在は自然に終末期を迎えることを希望する利用者が多く、意向に沿った支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し法人との連絡体制は確立されている。急変や事故発生時の対応についての話し合いは適時に行い、応急処置等の勉強会にも積極的に参加している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち合いの火災訓練を行い、自主訓練では地震や水害の想定でも行っている。併設病院との協力体制はできており備蓄の用意もある	年1回消防署立会いの合同避難訓練、偶数月に日中、夜間、水害、地震を想定した訓練を利用者も参加し実施している。また、病院の栄養課で3日分の食糧を備蓄し、緊急時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	処遇委員会での話し合いやミーティング等で折にふれ話し合い、排泄時の声掛けや声の大きさ、言葉使い、入室時のノック等も忘れないよう心掛ける等意識の向上に努めている	年長者である利用者に対する配慮ある声かけを会議の場で職員に意識付けしている。また利用者の感情を害さない口調や態度で対応することを心がけている。	おむつ交換時、同性介助を望む利用者に対しては、本人の希望に沿った介助をし、異性介助になる時は利用者へ説明し、同意を得るようにしてほしい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	些細なことでも本人が納得して行動できるように、その方に応じた声かけを行い本人が決める場面を作っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設としての流れはあるが、その日の状態や気持ちをくみ取りできる限り個別性のある支援を心掛けて対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	爪、口の周りの汚れや目やに等には特に気を付けています。男性には髭剃りを支援し入浴時や更衣の際は自分で洋服を選んで頂けるよう配慮しています。離床時の髪の毛の乱れにも配慮して対応している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お楽しみメニューや行事食等ではなるべく好みを聞き好きな物が食べられるよう対応している。お茶の時間の楽しみとして希望の飲み物が提供できるようメニューも用意している	朝食、夕食は病院の栄養課から、昼食は専門業者からの食事を提供しているが、お楽しみ会や昼食会を設け、利用者が好む食事やおやつを提供を心がけている。外食も楽しみの一つである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝夕食は併設の栄養課の献立で対応し昼食は配食業者より配達されている。摂取量や水分量等は個別に観察しチェック表記入にて情報を共有している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けすればできる人、誘導や介助が必要な人等職員は把握しており毎食後その方に応じた支援を行い、歯科衛生士も月1回は来訪し指導をもらっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、個別の排泄パターンにより誘導や見守りを行いトイレ排泄の継続や自立に向けて支援している	居室にトイレが設置してあり、利用者の多くはトイレでの排泄を望んでいるが、全介助で寝たきりの利用者もいる。日中はトイレ、夜間はオムツと状況に合わせた柔軟な自立支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度の運動、野菜類、乳製品、水分摂取等は日常的に配慮して自然排便ができるよう取り組んでいるが必要に応じて医師と相談し下剤で調整している方もいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	機械浴と一般浴を交互(1日おき)に対応し希望があればどちらでも入浴できるよう対応している。拒否のある人には声かけのタイミングや対応も工夫して行っているが基本日曜日の入浴はない	利用者の状態の変化で一般浴から個浴に、1対1の介助が必要になっている。入浴は1週間に3~4回、朝から今日は入浴日であることを伝えている。入浴の用意や身支度をすす利用する利用者もいる。	連日であっても入浴できる情報を利用者に提供し、利用者が選択できる機会を設けてほしい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量や夜間の睡眠状況の観察を行いながら安眠につながる生活を支援している。その日の体調によっても様子をみながら休息できるように配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	効能、副作用の説明書は個別に保管し全職員にわかるようにしている。処方変更があった時には申し送りを徹底し様子観察の強化や記録等に注意して対応している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の暮らしのなかで感じて頂けるささやかな喜びや楽しみ事を大切にしています。個別に好きな飲み物を用意したり家族との外出を支援し、手伝いがしたいと希望される方と一緒に家事を行いながら役割意識を持ちハリのある生活ができるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と定期的に外出している方もいる。希望時の買い物や天気の良い日には散歩に出かけたり、季節の行事での外出等の支援している	毎週お菓子を買に行ったり、定期的に美容院に出かける利用者を個別で支援している。また、家族と外出や外食をしたり、季節や天候による散歩やドライブも楽しみの一つになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方の力量に応じたお金の使い方や管理の仕方を家族と話し合いながら支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話を取り継いだり希望に応じて電話でのやりとりができるようその都度対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールから見える庭の一部は菜園になっている。庭の草花や野菜の生育等のながめられる。畳敷のスペースには掘こたつがあり季節を感じていただけるよう配慮している	共用空間は利用者が自由に自分のペースで過ごせる場所になっていて、こたつを設けた畳のスペースは利用者にとって馴染みの空間になっている。窓からの風景も居心地の良さをもたらしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の壁面に写真コーナーがあり折にふれ楽しめるようにしている。ソファを置き一人になれる場所も確保、畳敷のスペースも有効活用されている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には家具等の持ち込みは可能であることは伝えており、家具やテレビを持ち込んでいる方もいる等思い思いに工夫されている	馴染みの家具や寝具、衣服、家族の写真等があり、個性あるその人らしい居室作りを支援している。居室内にトイレがあるにもかかわらず、臭いもなく清潔である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱や不安の原因を探りながら状況に合わせて環境整備を行う等安全でできる限り自立した生活が送れるよう工夫している		